

自転車の交通安全を考える

こんな・あんな場面

10

7 「知ってるよ、ルールくらい」。守って初めて言えること。

頭でわかっているけど、実際にルールを守らなければ、安全な運転とは言えません。

3 いつもは車の来ない交差点。きょうは「いつも」と違うかも。

交差点は事故が起きやすい場所です。よく知っている場所でも、油断しないで、ちゃんと一時停止。

8 自転車に乗りながらメール。内容も運転も気になる。

運転に集中できない行為は、注意力が散漫になり、いざというときの対応が遅れます。

4 自分から車は見えている。車も自分が見えているはず。

自転車は、周囲の人や車から発見されにくい乗り物です。安全運転を心がけてください。

9 人通りの多い道。サーカスの曲芸師のようにすり抜けた。

運転に自信があっても、周囲には迷惑です。歩行者の多い場所では、自転車から降りましょう。

5 仲よしだもの。いつも並んで走りたい。

自転車は併走禁止です。歩行者や車の通行の妨げにならないように、一列で走行しましょう。

1 目立つのは嫌い。でも、夜の私は目立つ人。

自転車のライト点灯や反射材の装備はもちろん、明るい服装を身に付けましょう。

10 注意する気持ちは、いくつあってもいいと思う。

事故にあわなくても、「ヒヤリ」とした経験は誰でもあるはず。注意に注意を重ねて運転を。

6 「ママ危ないよ」。子どもに言われて気が付いた。

免許がいない自転車。子どもは大人を見ています。見本になるような運転を。

2 自分が通る道は、いつでも自分が主人公。

道路は、誰もが使う場所。周囲の状況をよく判断し、思いやりを持って走行しましょう。



Duet

デュエット

広報川越へのご意見・ご感想を
紹介するコーナーです

あて先 〓〒350-8601 川越市役所広聴広報課「デュエット係」 〓ファクス 〓225-2895 〓Eメール 〓city.kawagoe.satama.jp
*必ず住所・氏名・年齢・電話番号をご記入ください。
*匿名・ペンネーム希望の場合は、その旨を明記してください。

ぼくのおとうさんは、さつまいもを作ったことがありません。でも、前の前のおじいちゃんはずつまいもをつくっていました。

ぼくも作ってみたいけど、作り方がわかりません。おとうさんは、前の前のおじいちゃんに作り方を教えてもらってます。ぼくは、できるか心配だけど、できるように練習しようかと思

っています。大人になってさつまいもができたなら、家族のみんなに食べさせたいです。

黒田直樹（上松原）

■広報川越から

このコーナーでは珍しい、小学生からのお便りです。

離乳食にサツマイモを食べて育ち、今でもサツマイモが大好き。自宅の畑でお父さんといっしょに、自分の家で食べる分だ

けのサツマイモを栽培しているそうです。なかなかうまくできないそうですが、将来、りっぱなサツマイモが作れるようになったら、「前の前のおじいちゃん」も喜んでくれるのではないのでしょうか。

私

はサツマイモが大好きです。まず第一に代用食が浮かんで来ます。家が学校の近

くだったので、お昼になると駆けて行って、ご飯は少して白いオイランと言うとても柔らかで甘く美味しいサツマをほほばりました。今はあまり見かけませんね。

又、母は細く切り、たっぷりの水でゆつくりと煮て、アンカケやキントンを作ってくれました。お正月が来るといつも思い出します。

（二部省略）

高橋文吉（古谷上）

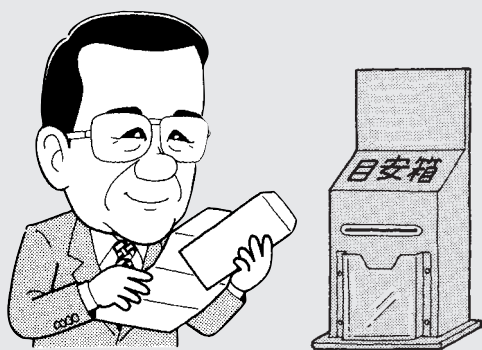
■広報川越から

オイラン（花魁）という品種は、一般的な黄色と違って、肉の色が白いサツマイモです。日本で栽培されているサツマイモの品種は数十種類。紫色やオレンジ色の物もあります。

*ふりがなは広聴広報課で付きました。

舟橋市長に提案

No.125



市の山車を、山車のない地区の人がひけるようにしたらどうですか？

提案要旨（市民目安箱）

市内には、山車をひいてみたい、触ってみたいと思う人がたくさんいるはずです。山車のない地区の人たちのために、市の山車をひけるようにしたらどうですか。子どもたちも喜ぶと思います。

回答

市では、平成14年の市制施行80周年を記念して、市内の百貨店から寄贈していただいた「猩猩の山車」を所有しております。

以来、市では川越市囃子連合会や川越鳶組合にご協力をいただき、山車をひいたことがない市立小学校6年生を中心に「猩猩の山車」のひき回しを行っています。

4回目を迎えたことは、10月16日にひき回しを行い、大手町の鉦女会囃子連のご協力の下、約120人の小学生が参加しました。

私は、今後も伝統文化の体験・継承と郷土意識の高揚を図るため、山車をひいたことがない市立小学校の児童の皆さんを中心に、「猩々の山車」のひき回しを行っていきたいと考えております。



ことしのひき回しの様子

さらに、山車保有町内にご協力を願い、山車のない地区のみでなく、山車はあっても参加しない年に当たっている町内の子どもたちも、山車のひき回しに参加できるようなことも配慮するべきであると考えております。

このことについては、観光課観光企画担当・TEL内線2733にお尋ねください。